

バリアフリーニュース (第5号)

みなさまのもとへバリアフリーニュース(第5号)をお届けします。



栗



十五夜

多目的トイレについて

浜中智美 さん(青森リーガー)

バリアフリーニュース、今回のテーマは『トイレ』です。先日、外出中に“またか～!!”な出来事に遭遇したのでそのことについて書いてみようと思います。

言うまでもなく、私が利用するのは「多目的トイレ(だれでもトイレ)」です。行き先全てにあるとは言えず、一般のトイレの数に比べたらまだまだ少なく、さらに、最近ではユニバーサルデザインの考え方で誰でも使いやすいようにと、おむつ換えシートやベビーチェア、オストメイト対応になるなど様々な設備が設置され、「身障者用トイレ」→「多目的トイレ」→「だれでもトイレ(みんなのトイレ)」と変化してきています。

“誰でも使いやすいように”一見すると、とても便利で良さそうな気もしますが、多機能になったことで利用者が一気に増え、そこしか使えない利用者たちからは、“使いたい時に使えない”という声が沢山上がり、私もその意見に賛同する一人なのです。

さて、先日コンサートを見に行った時のこと。始まる前にトイレに行こうと思ったのですが使用中。障害によってはトイレに時間がかかる方もいるので声がけはせず待っていたのですが、30分を過ぎても出て来なかったためトイレに近づいてみたら、明らかに集団でトイレに入りおしゃべりしている様子が聞こえてきました。おまけに、ヘア 드라이ヤーをかけている音まで。

なぜ、そういう状況になっているのかというと、会場でグッズとして売られているTシャツを購入し着替えるためなのですが、一般のトイレの中であれこれするには狭いため友達同士で「多目的トイレ」に入り、着替え・メイク・ヘアスタイルのセットなどをしているのです。

コンサート会場のトイレでは昔から良く見る光景なのですが30分以上とは長すぎると思い、出てくのを確認したら7人で入っていたようでちょっとイラッとなりましたが、一般のトイレも大混雑しているため私がトイレの近くで待っていようとお構いなしという感じで、結局、始まる前にトイレに行くことが出来ませんでした。ちなみに、そのトイレは「車イストイレ」と謳っていたのですが、時代の流れで少しずつ「だれでもトイレ」に変化してきていることもあってか、“使っても良い！”という認識があるようで利用する人が絶えず、使いたいのに使えない事態が発生していたのです。

このように、トイレ本来の利用だけではなく違う用途で使われることも多い「多目的トイレ」。例えば、学生さんは隠れてタバコを吸うために使い、ママさんは授乳するために使い、カップルさんは籠もって中々出て来なかつたりします。中には、自分のファッションコーデをブログなどに載せるために使ったり(大きな鏡があるため撮影しやすいのだとか)、時には、オストメイト対応の設備であるシャワーを使って、シャンプーしたり洗濯したりする人まで表れるなど注意書きを目にすることも多く、本当に利用する目的は様々です。

確かに「多目的トイレ」は“どなたでもご利用ください”と表示していることもあり、“空いていたら利用する！”と言う人もいるかもしれません。しかし、電車や駐車場という「優先」と同じだと思うのです。スペースを確保している以外にももっと深い事情があるということを、そこでしか用が足せない利用者がいるということを察していただいて、一般のトイレで問題のない人は、空いていたとしても出来る限りは多目的トイレを使うことは避けてほしいと思います。



《コスモスの花言葉》 「乙女の真心」

ロンドンでの思い出

藤井俱子 さん(山形リーダー)

近年色々な場所でバリアフリーの声が提唱され、人々に理解され始め障害のある方々に活動しやすい環境が整備されてきました。特に昨年、国土交通省から打ち出されたUDタクシー認定制度は、老人や足の不自由な方、子連れの方、そして車椅子の方等通常のタクシーでは利用しにくさがあるが、気軽に何時でも何処でも利用でき幅広く多くの方々に便利さと優しさを提供してくれる非常にありがたい制度です。リフト車と違って料金も安いので多くの台数が街に出回ればと期待をもって嬉しく思います。

山形で23年前車椅子の息子とタクシーを利用しようとしたところ車椅子を乗せるトランクがないのを理由に乗車拒否されました。東京に行く時は車椅子対応のリフト車を予約して出かけたものでした。

同じ23年前息子とロンドンに旅しました。空港からホテルへの定期バスはノンステップの車椅子対応車で、カルチャーショックを受けたと同時にこれから先どのような素敵な観光が出来るのか心穏やかではありませんでした。

翌朝の観光バスでは前の座席にお客さんが既にいたのですが、ガイドさんの声掛けに快く良く席を譲って下さり、別れ際には「よい旅を！」とにっこり。

寺院の前では階段の下で建物の大きさにびっくりして眺めていたのに、すぐに男性が寄ってきて「持ちましょうか？」と声をかけてくれます。又長蛇の列で順番待ちのレストランではボーイさんが出てきて先に案内してくれたのですが、並んでいる人たちが当たり前のように笑みをうかべて「楽しいお食事を！」と声をかけてくれました。

バースの片田舎の小さなレストランに入った時は、私たち親子2人が座れる席がなく、どうしようと思った次の瞬間、客が自発的に移動して2人分の席を作ってくれました。ウェイトレスさんもメニューの内容を分かるまで説明してくれて、どれも美味しく至福の昼食でした。

市内でタクシーは止まってくれたのですが「待て！」と言われ“乗車拒否？”と心の中で思ったのですが運転手さんがドアを開け車いすごと乗せてくれて「ここから先はあなたの責任ですよ。しっかり押さえててくださいね」と。

博物館では展示品を運ぶ部屋のような大きなエレベーターに乗り、お城ではスタッフ用の2人がぎりぎりの小さなエレベーターに乗せてもらったり、デパートのエレベーターでは沢山の人が待っていたのですが前の人「車椅子の人がいるから先に乗せて！」と待たずに乗ったりでお土産を買って時間が余った

のでケンジントパークで芝生に寝転んで空を眺めながら「かえりたくないね〜」「僕も帰りたくない」ときれいな空を眺めていました。ロンドンは古い都市なのでハード面はノンバリアフリーでしたが、ソフト面はこの上ないバリアフリーでここに書ききれない沢山の逸話がありました。

12日間の日程も終わり空港で搭乗手続きの際入国の時に案内して下さった担当の方が「この便はビジネスクラスがあいているのでそちらの席どうぞ」とゆったりした席でぐっすり寝る事が出来、旅の疲れは感じませんでした。



《ダリア 花言葉の由来》 「華麗」

バリアは生きもの

佐々木孝 さん(秋田リーダー)

秋田でバリアフリーが唱えられ始めてからほぼ20年。その必要性は県内で行政や公共部門の事業において極めて短時間に普及していった。バリアフリー条例の施行が全国47都道府県中46番目と遅咲きだった秋田県が短時間で追いついたのはコンセプトの「わかりやすさ」にあったと思う。

誰でも暮らしを楽しめるまちを実現するためには、物心両面の様々なバリアを解消した方がいいというのは「当たり前」のことだから、すぐ「わかった」となる。実はこの「当たり前」や「わかった」には落とし穴がある。「当たり前」で「わかった」ということと「やった」ということは全く別のことなのだが、得てして「わかった」が「やった」にすり替わってしまうことが多い。一種の思考停止であり、バリアフリーに限らず他の様々な場面でも遭遇するところである。

そもそも、バリアという「モノ」が先験的に存在するわけではない。それは誰でも日々の生活の中で遭遇する人と「ヒト」、あるいは、人と「モノ」との間に生ずる不整合な「状態」であり、相対的な「関係」なのだから。それは日常生活の中で常時発生したり、消滅したりしていて、まるで生き物のように有機的な存在である。

私たちは、生活のメンテナンスの視点からまちの状況を監視している私的管理者と考えており、これが20年間継続してきている私たちのバリア調査の動機である。一度調査をしたから、手当を施したからといって快適な状態が永久に続くわけではない。今日のバリアフリーは明日のバリアなのである。

実際街の現実には、ハードのバリアフリーで量られることが普通で、よく例に出されるのが路面の誘導タイルや手すりの設置だが、施工後その使用状況を検証することはまれである。舗装が終わったはずなのに雨が降ると水がたまって歩けない歩道、利用されない誘導タイル、車優先のため歩行者が無視される横断歩道信号時間の長さ、など列举にいとまがない。

破損した舗装のせいで靴のかかとが取れるとすぐ行政が訴えられるアメリカの都市では考えられない。結果が問われるまちづくりのありかたが問われるところである。



《キンモクセイ 花言葉》 「謙遜」「真実」

【編集後記】

平成27年度の折り返し時期に、第5号を発行させていただきます。

前回までは、年度末の発行でしたが、皆様のご協力により発行となりました。ありがとうございます。

我が課は、7月に組織改編があり、交通環境部から交通政策部に編入されましたが、業務内容は今までと変わりませんのでよろしくお願いいたします。

今年度の「バリアフリーリーダー会議」は、来年1月～3月の期間に、開催させていただきます。今年度も、年度末の開催となり恐縮です。会議日程については、改めて連絡し調整させていただきますのでよろしくお願いいたします。

今後ともご協力、ご指導方よろしくお願いいたします。

(発行)

東北運輸局交通政策部消費者行政・情報課

〒983-8537

仙台市宮城野区鉄砲町1番地 仙台第四合同庁舎

TEL:022-791-7513

FAX:022-791-7539

E-mail : tohoku-syougyouka@mlit.go.jp

※東北運輸局発行のバリアフリーニュースはホームページに掲載しております。

<http://www.tb.mlit.go.jp/tohoku/index.html>



《なでしこの 花言葉》 「純愛」「大胆」「勇敢」